



『活きていることわざ』

船橋市議会議員

神田 廣栄 (かんだひろえい) 議会報告

【事務所】船橋市前原西8-24-8 ☎490-3333 FAX 465-7117
Eメール hiroei@muc.biglobe.ne.jp
ホームページ <http://www.hiroei.jp>

盾(たて)の両面を見よ・暖簾(のれん)に腕押し

【盾の両面を見よ】◇物事の一面だけを見て判断せずに、表と裏の両面をよく見てからその価値を判断せよ、ということ。

・英語のことわざ Look at the both sides of the shield.
の翻訳。

【暖簾に腕押し】◇少しも手ごたえがなく、張り合いのないことのとえ。

・暖簾を相手に腕押し(腕相撲)をするようなものだ。

穏やかななかにも清々(すがすが)しく迎えた正月から1ヶ月余りが過ぎました。昨年の4月30日に、私の当選を見届けて母が逝(い)きました。平成5年に逝(い)った父と同じ85歳でした。健康な体に生んでくれた両親に感謝しつつ、両親を超えるまで頑張っていきたいと願うものです。

今年も皆様にとって健康で明るい年でありますことをご祈念申し上げます。

ところで、今回は昨年の12月議会の報告をします。混乱した議会でもありました。議会運営委員長が辞職(実際は、委員会で不信任となり辞任願いを提出)したり、議長に対する不信任が市民社会ネットから提出され、本会議で否決するということがありました。2回も深夜まで議会が開かれておりましたが、議事が紛糾していたわけではなく、理由はこの二人のことで、全く無駄な時間と光熱費が費やされたのです。



この顛末(てはつ)を報告すると何ページにもなりますので省略しますが、議会運営委員長を辞任に追い込んだり、議長不信任を提出したりする内容のものではなかったことだけは言わせて戴きます。

客観的・中立的な立場で見ても、決して辞任や不信任を提出される内容のものではなかったと断言します。残念なことに、私と反対側の立場の議員はホームページやチラシに、より自分たちに利があるように喧伝(けんてん)していますが、事の発端(自分たちの主義主張を述べるために議会の慣例や、議長の制止を無視し発言を続けた行為)については詳細に触れていません。あたかも自分たちに正義があるような表現を見るにつけ、実態を知らない人は、一方的な報告を見て「辞任、不信任は当然である」と判断してしまう怖さがあります。「言った者が勝ち」ということがないよう『盾の両面を見る』ことが必要です。

二人の名誉のために敢えて書きました。



①飯山満土地区画整理事業に関係して

東葉高速鉄道飯山満駅周辺を見渡すと、まだ乗客は少ないようですが、

駅前ロータリーにバスが乗り入れたり、その側にはマンションが1棟建ち、少しずつ賑わいが出てきたようです。



人や車が賑わってくると、事故防止のために歩道や道路整備に十分配慮する必要があります。新しく道路が開通した芝山中学校前のT字路は、信号機がなく非常に危険な状態です。以前、区画整理事務所から、この交差点に信号機を設置しなければならぬ、とは聞いていましたが、早急に設置すべきであり、いつ頃になるのか伺いました。

また、この新しい道路に沿う調整池側の半月状の土地（約500㎡）に花を植えたりして有効活用ができないか伺いました。

— 都市整備部長の答弁 —

千葉県警と船橋東警察署と協議をした結果、20年3月頃までには信号機の供用が開始できると考える。

この土地の所有者と調整をはかり、可能であれば花壇等として活用できるようにしたい。

②地域猫対策への取り組みについて

鳴き声や糞尿被害に悩んでいる野良猫の対策を行っている町会に、不妊や去勢費用の助成をして欲しい、と以前に議会で質問したところ「暖簾に腕押し」の冷たい答弁をもらいました。今回、再度その質問をしました。

猫を捕獲して命を断つことのないように、不妊・去勢をして少しずつその数を減らしていけば、いずれ野良猫がいなくなるという考え方で活動している、いわゆる「地域ねこ活動」をしているある町会が市に助成してもらいたいと、依頼文を提出したところ、市は「飼い猫でないため助成できない」とつれない回答をよこしました。



この町会は、手術費用の資金を作るために募金やバザーをしています。家で飼っている犬・猫にだけ助成（1世帯につき、犬1頭又は猫1匹あたり5000円を上限）しないで、こんな涙ぐましい努力をしている地域ねこ活動にも助成すべきだ、と当局の見解を質(たず)ねしました。

— 健康部長の答弁 —

不妊・去勢手術活動を自費で行っていることは敬意を表するが、まだ助成を待っている人が多くいる状況なので、地域ねこ活動への手術費用助成は無理である。

◆裏話を言うと、本音は「現在の予算が年間100万円で、これ以上増額してもらえない」とのことです。動物の命を大切にするために予算をもっと増額し、立派な活動をしている人達に報いなければなりません。



今年もよろしくお願ひいたします